

【12 - 99】

仮設 de 仮設カフェ

temporary cafe at temporary housing

○赤熊宏紀*¹、岩佐明彦*²、新海俊一*³、篠崎正彦*⁴、安武敦子*⁵、小林健一*⁶、
川村成正*⁷、長谷川崇*⁸、巨亮*¹、田中悠介*¹、中川朋子*¹、
鎌倉敏士*¹、櫻井佑*¹、竹内敦志*¹、中野将人*¹、宮越敦史*¹

○AKAGUMA Hiroki, IWASA Akihiko, SHINKAI Shunichi, SHINOZAKI Masahiko, YASUTAKE Atsuko, KOBAYASHI Kenichi,
KAWAMURA Narimasa, HASEGAWA Takashi, LIANG Ju, TANAKA Yusuke, NAKAGAWA Tomoko,
KAMAKURA Satoshi, SAKURAI Yu, TAKEUCHI Atsushi, NAKANO Masato, MIYAKOSHI Atsushi

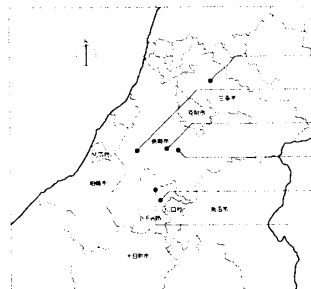
仮設住宅において行った仮設的なオープンカフェである。持ち運び、組み立て、解体が容易にでき、突然持って行って組み立てることで、非日常的な場所を作り出せる。特定の利用者に限られた場所ではなく、ニュートラルな場所を作り、居住者が分け隔てなく利用できる環境を提供することができる。今回のカフェ以外にも、ローコストな上、持ち運び、組み立て、解体が容易にできるため、様々な場面に応用可能である。

keyword temporary housing open cafe mobile neutral support

仮設住宅 オープンカフェ モバイル ニュートラル 支援

■背景と目的

2004年に発生した7.13水害及び中越地震により、71地区3860戸の応急仮設住宅が建造された。仮設住宅は2年間の暫定的な住まいではあるが、突然住居を失った居住者が生活を快復していく重要な居住環境である。本作品は、2005年9月から10月の週末を利用し、6カ所の仮設住宅で計9回行ったオープンカフェのデザインである。このオープンカフェは、仮設住宅居住者やボランティア、周辺の住民が交流するきっかけをつくりと、仮設住宅をより快適に住みこなすためのノウハウの流通、以上2点を目的としており、(1)車で簡単に持ち運びできること、(2)設営・解体が容易であること、(3)仮設住宅地内の集会所などの施設に依存せず、自由に人が出入りできるニュートラルな環境を構築すること、(4)仮設住宅の改造方法などの情報を展示できることが求められた。



開催日	開催場所	開催時間
9/10 (土) .11 (日)	三条市月岡地区	15:00~日没
9/17 (土) .18 (日)	埴田市陽光台	15:00~日没
9/24 (土) .25 (日)	虎岡中央地区 (鎌倉場)	15:00~日没
10/16 (日)	浜岡東部地区 (惣久山)	14:00~日没
10/23 (日)	小千谷市元中子	14:00~日没
10/30 (日)	小千谷市千谷	14:00~日没

fig. 1 カフェ開催日・場所・時間



カフェの様子 (長岡市陽光台)

*1 新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程

*2 新潟大学工学部建設学科助教授・博士(工学)

*3 長岡造形大学造形学部環境デザイン学科助教授・博士(工学)

*4 昭和女子大学短期大学部生活文化学科助教授・博士(工学)

*5 東京理科大学工学部建築学科助手・博士(工学)

*6 国立保健医療科学院施設科学部・博士(工学)

*7 前田建設工業(株)・修士(工学)

*8 新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程・修士(工学)

Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.

Assoc. prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Niigata Univ., Dr. of Eng.

Assoc. Prof., Dept. of Environmental Design, Faculty of Design, Nagaoka Institute of Design, Dr. of Eng.

Assoc. Prof., Dept. of Practical Science and Culture, Showa Women's Junior College, Dr. of Eng.

Research Assoc., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Tokyo Univ. of Science, Dr. of Eng.

Dept. of Facility Sciences, National Institute of Public Health, Dr. of Eng.

Maeda corporation, M. of Eng.

Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ., M. of Eng.



fig. 2 モバイルテントの組み立て

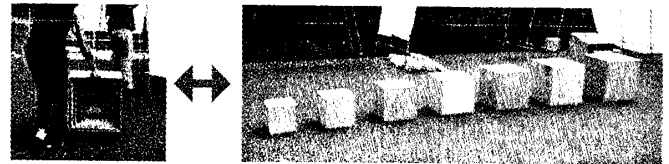
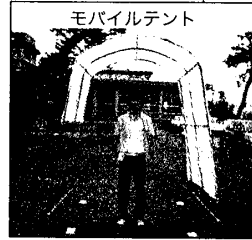


fig. 3 イスとテーブルの仕組み

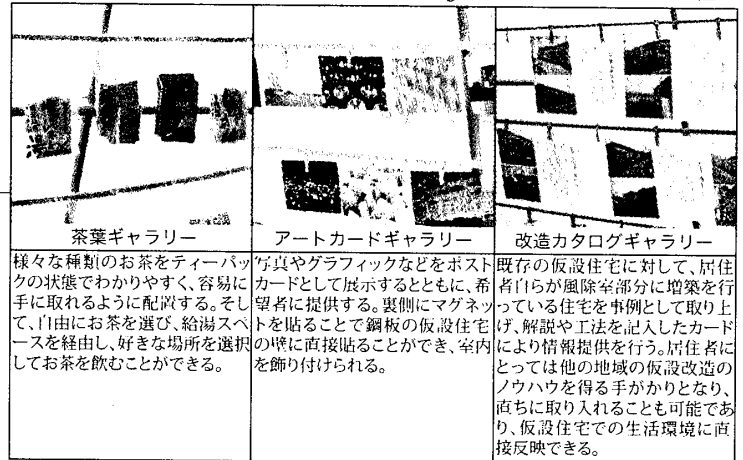


表札工房

表札や「留守にしています。」などと書かれた案内板の制作を居住者と一緒に行う。マグネットシートに書くことで、アートカード同様、鋼板製の仮設住宅の外壁に貼ることができる。同じ形態の住宅が建ち並ぶ仮設住宅において、自宅の日印となる。



モバイルテント



茶葉ギャラリー

アートカードギャラリー

改造カタログギャラリー

様々な種類のお茶をティーバックの状態でもわかりやすく、容易に手に取れるように配置する。そして、自由にお茶を選び、給湯スペースを経由し、好きな場所を選択してお茶を飲むことができる。

写真やグラフィックなどをポストカードとして展示するとともに、希望者に提供する。裏側にマグネットを貼ることで鋼板の仮設住宅の壁に直接貼ることができ、室内を飾り付けられる。

既存の仮設住宅に対して、居住者自らが風除室部分に増築を行っている住宅を事例として取り上げ、解説や工法を記入したカードにより情報提供を行う。居住者にとっては他の地域の仮設改造のノウハウを得る手がかりとなり、直ちに取り入れることも可能であり、仮設住宅での生活環境に直接反映できる。

fig. 4 カフェのコンテンツ

■ 什器のデザイン

カフェの什器として以下の2つを制作した。

モバイルテント

農業用ビニールハウスのパイプと、農業用遮光シートを用いた1.8m×2.0mのテント空間。道具を用いずに金具とクリップだけで組み立てることができ、分解した状態で自家用車で運搬することが可能である (fig.2)。

イス・テーブル

一辺30cmから50cmまでの7種類の立方体の木箱 (fig.3)。大きさに応じてイスやテーブルとなる。運搬時は重ねることで7つの木箱をを一つにまとめることが可能で、一番大きい箱には運搬用の車輪が取り付けられている。

■ カフェのコンテンツ

カフェ利用者同士の交流のきっかけや、居住環境の支援につながるコンテンツを4種類提供した (fig.4)。複数のコンテンツを用意することで幅広い属性の人たちに訪れてもらい、気軽に参加できるものとした。

■ 配置計画

仮設住宅地でのカフェの実施場所は広場や道路、駐車場など様々であり、それぞれの環境に対応してテントのレイアウトし、オープンカフェ空間を構築した (fig.5)。設置に当たっては、利用属性が限定されている仮設住宅地内の集会所と差異化をはかり、誰に対しても気兼ねなく自由に入出入りできる配置とし、様々な属性の人が参加出来るようにした。できるだけ目立つ場所で短時間で設営することで、非日常的空間が突然出現するような演出とした。

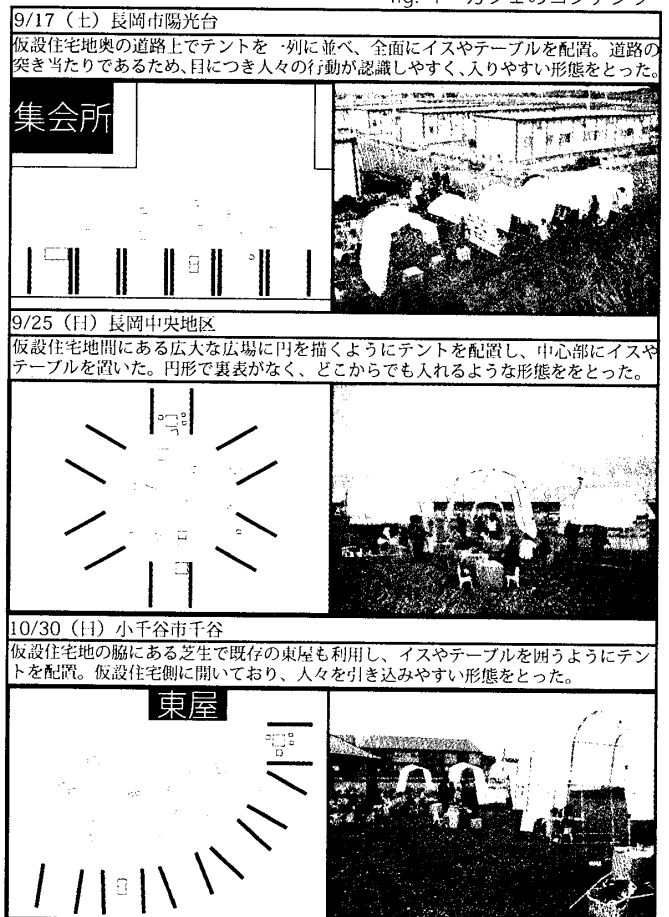


fig. 5 テントのレイアウト

今回のカフェプロジェクトは、仮設住宅の居住環境調査を兼ねており、調査と支援が両立させる計画に上手く対応することが出来た。この仮設カフェはどこへでも持ち運べ、どこにでも非日常的な空間を作り出せるものである。今後は仮設住宅地以外での展開も試みたい。

※本プロジェクトは住宅総合研究財団の研究助成を受けて行いました。